松本市里山辺林町会
「歴史の里」散策マップ
金華橋
桜並木
薄川
老松保存木
万葉歌碑公園
❶岩鼻
製水池跡
戦時軍事地下工場入口
❷一ノ門跡
(慈眼寺観音堂跡)
❸慈眼寺聖観音
(上手町)
❹慈眼寺跡
❺慈眼寺地蔵
林鉄登り口
戦時軍事地下工場廃棄物
株土跡と工場入口跡
縄文時代
石棒出地
戦時半地下工場跡
あずまや
N
機倉町会へ
双対(夫婦)道祖神
林共同墓地
(地獄通り)
道祖神・庚申神
柳澤化石鉱石館
林公民館
(立町)蔵造の町並通り
(南小松町会)
蔵跡
(横町)
ホタルの里
竹渓庵跡
(林業師堂跡)
戦時軍事地下工場
振興株式
❻旧真観寺跡
林小城登り口
(大嵐崎)
❺化粧井戸跡
林城(大城)跡
あずまや
❾地獄の釜
林小城跡
林城登り口
大嵐崎山ノ神社
❼六部屋敷跡
❽瑞光寺跡
大嵐崎の碑
筑摩四丁目
信号機
●盛徳学校跡
富士電機松本工場
長野液酸
旧五十石街道
⑰未曽門跡
岩波酒造
旧薬医門
(移築)
⑱富士浅間宮古宮跡
(おさ)
(お浅下)
⑭御府古墳跡
※千鹿頭北道路
下座橋
(神田町会)
駐車場
⑳宿世結神社
歌碑
神社参道入口
⑮ゆ(まつ)の宮
トイレ
千鹿頭池
(和合池)
千鹿頭神社
⑯服(はた)神社
展望台
桂美術館
⑲旧浄蓮寺跡
(山麓史跡説明板)
広澤寺
小笠原秀政・忠脩
父子の墓(供養塔)
(◎裏面に史跡説明があります)
金華橋
筑摩橋
あずまや橋
至松本城
至松本駅
至中山
至美ヶ原
ゴルフセンター
小松橋
金華橋
薄川
松本工業高校
筑摩神社
富士電機
林公民館
林小城
大嵐崎
林城八
林城登り口
林城大嵐崎登り口
林小城大嵐崎登り口
林小城郭
林小城登り口
広澤寺
千鹿頭神社
上り15分 下り10分
上り20分 下り15分
上り25分 下り20分
上り15分 下り10分
上り30分 下り20分
上り30分 下り20分
15分
20分

マップに記録されている場所の説明

林町会の歴史

「林」の地名の起こりは必ずしも明確ではありませんが、歴史上説明できる範囲では奈良後期から平安初期に、林の里長「六郎」が大嵩崎に屋敷を構え今の神田・筑摩地区周辺まで支配し、千鹿頭神社を勧請し、慈眼寺を開基したと伝わります。

時代は下って、室町時代中期「井川」の地に館を構えていた信濃守護の小笠原清宗は、度重なる水害と同族小笠原氏による襲撃に備え、林の地に山城を構え、二男藤助を城代に据えたことで林の町割りが始まったと伝わります。以降1550年に武田氏の侵攻により、小笠原長時が敗走するまで林城の時代は続きます。

江戸時代になると、ほぼ現在の区域で山家組林村となりますが、寛文8年（1668）に大嵩崎新田村が分離独立します。そして明治8年に大合併で里山辺村と入山辺村が誕生します。現在の「林町会」の成立はこの時といえます。（大嵩崎町会は平成20年に林町会に合併しました）

林城（大城）

小笠原七代清宗が井川の館の要害城として長得4年（1460）頃完成させたと言われ、以降十一代長時が退避した天文19年（1550）までのおよそ90年間存続したと考えられています。大城と小城に囲まれた中に館を構え、周囲に幾つもの支城や出城を持つ全国でも有数の規模を誇る山城です。小笠原氏が強い統制力を誇る戦国大名へと脱皮することが出来なかったため、武田氏の侵攻に会い、城はあえなく自落してしまいました。

林小城

以前から「小笠原清宗の二男藤助が城代を勤めた「林古城」が本来だ」とする考え方がありましたが、「縄張りの複雑さから大城より新しい」と現在は考えられています。しかし、大城築城後に手を加えたことも考えられ、決め手はありません。郭の状態が大変よく残る山城です。

広沢寺

小笠原政康が高吉元年（1441）に雪宦一純禅師を開山として開基した臨済宗龍雲寺に始まると言われます。後に宝徳元年（1449）に小笠原持長により曹洞宗に改められました。天文11年（1542）小笠原長棟により現在の廣澤寺に寺号が改められました。小笠原氏の菩提寺で山辺では明治に唯一廃寺を免れた寺院です。寺の裏山に大坂夏の陣で戦死した小笠原秀政・忠脩父子の墓（供養塔）があります。

千鹿頭神社

草創は不詳ですが、林六郎が諏訪の守宅（もりや）神の御子神の千鹿頭神を勧請したのが始まりと言われています。元和3年（1617）に松本藩から東5000石が諏訪領として諏訪氏に割譲されたとき、千鹿頭山の峰が境界とされたため、神社も分され、神田地区は諏訪領とされました。そのため拝殿・本殿それぞれ2つが並列する珍しい形の神社が生まれました。現在の祭神は建御名方の命で林六郎も合祀されています。

---

① 岩鼻

かつてこの付近に、金華山（林城山）の名称の由来となった「金ノ華幾現」が絶られていたそうです。「金華（かねのはな）」が「鼻（かご）鼻（江戸）→「岩鼻」（明治）に変化したと考えられます。昭和の初期頃林場の暗渠工事で爆破痕あるがあるまで、薄川にせり出す大岩に同様沢がかかる景勝地であったそうです。明治初期まで付近に「林山ノ神」が祭られていた。

② 一ノ門跡（慈眼寺観音堂跡）

林大城の「一ノ門跡」と言われていますが、文化13年に鑑の慈眼寺により「観音堂」が建立されたという記録があります。

③ 旧慈眼寺聖観音

林大城の「一ノ門跡」の観音堂聖観音が明治の廃仏毀釈でこの地に移され安置されました。

④ 慈眼寺跡

大岡年中（800年代初期）林六郎が開基した寺で、往時は福山の峰にあったが1500年代初期に現在地に移され、明治3年に廃寺となりました。「松本三十三番札所」で、「薄く濃く染まる林の村紅葉　御法の問はわさて問うなど」の御詠歌が残ります。

⑤ 化粧井戸

大城本郭を30mほど構倉方面に下った地点にある井戸。水量が少ないので「補助的な水源」と言われています。

⑥ 猪光寺跡

「小笠原長頼の三男嶮益（ゆいえき）が住持した寺」と言います。寺がいつ廃されたか分かりません。大城を隔てて東の集落「南方城区」に同名の寺院があり、明治の廃寺の後堂守は一時「南橋学校」の校舎として使われています。あるいはこの地より南方に移転したのかもしれませんが、残念ながら何の伝承もありません。

⑦ 六郎屋敷跡

林の里長六郎の屋敷跡といわれ、地名が今に残ります。

⑧ 旧真観寺跡

真言宗高野山金剛頂院末寺で、明応2年（1493年）真宏が中興開基の寺と伝わります。落城後、浅間の地に移され明治に廃寺となりました。場所については対岸の「地獄の釜」付近とする説もあります。

⑨ 地獄の釜

「城の防備のために敵えて作られた沼で、馬一頭が引きずり込まれたことがある」という恐ろしい言い伝えがあります。

⑩ 林村双体（夫婦）道祖神

鳥居と幟とが彫られ、その下に二人がたたずむ珍しい形で、「山辺道祖神の名作の一つ」との呼び声の高い作品で、「何時の時代か入山辺地区より移されたもの」との伝聞があり、当時の風習を知る上でも貴重です。

⑪ 竹流尾・林薬師堂跡

小笠原長時が母「竹流尼」のために建立した庵跡（貞慶が建立とする書物もあります）と言われ、明治以降廣澤寺の末寺的扱いとなっていましたが、今は幾つかの石碑が往時を偲ぶばかりです。この地に「薬師」の地名が残っており、江戸期の「松本十二薬師」の一つ「林薬師堂」があった場所と推定されます。林薬師堂には「おいをさえつげの枕のとりのねに　めざめおどろくあかつきの空」の御詠歌が残ります。

⑫ 富士浅間宮古宮跡

小笠原氏が林城城に伴い勧請したと言われます。その後、慶長20年（1613）に宮村に遷宮されました。跡は江戸期「古宮」として伺らかの形で祀られていたようです。この地に「お浅下」という地名が残ります。

⑬ 旧薬医門

明治初期に小岩井祥一郎さん宅の門として移築されました。原型は二重屋根で六星入瓦葺であったが破損著し現在の通常屋根に改修されたと言われています。

⑭ 御府古墳跡

御府社として長く信仰されてきました。付近からは幾つかの法界石（墓石）も出土し、六郎墓のいわれも残ります。

⑮ 旧浄蓮寺跡

永正年中（1500年代初期）中林の郷より移ったが、長朝の代に火災焼失し、長時の代に現在の伊勢町の地に再度移されました。林より移したので現在の寺号「浄林寺」に替えたとのことです。

⑯ 兎田（うさぎだ）旧跡碑

「林藤助がこの辺りに館を構えていた頃、徳川氏の祖（有親・親氏）親子が流れの途、旧知の藤助を訪ねた。冬季の最中何もてなす物とて無し藤助はこの地で野兎を狩ってもてなした。その後、徳川氏はとんとん拍子で隆盛を極めた。これは目出度い兎よと鬨来元旦に兎のお頃い物を出すを将軍家の古例とした。」と故事は伝えます。それ以降この地を「兎田」と称し江戸時代は免田（税を納めなくてよい田）となっていました。

⑰ 未曽門（みぞぅうもん）跡

昭和初期まで門の礎石が残っていました。ここからが千鹿頭神社の神域であったことが分かります。

⑱ 先ノ宮（まずのみや）跡

享保5年（1721）水野氏に差し上げた「千鹿頭縁起」には「府中六社ノ内ニマズノ宮明神ト社アリ　御神体ハ大臣貴（＝大国主命）ナリ…」とあります。今は「先の宮（さきのみや）」として、小規模な祠が残るのみです。

⑲ 服神（はてがみ）社

ご祭神は建御名方の命で、往時は千鹿頭神社と同じく尊崇される大社で別名「手払いの宮」と称したと記録にあります。「腹の病の神」として信仰があるそうです。今は先ノ宮同様に小さな祠を残すのみです。

⑳ 宿世結（しゅくせむすび）神社

上記「縁起」には「…祭神ハ宿世結神ニシテ動請ハ遠久世武天皇延暦年間ニシテ聖長六郎ノ女子妃レリ…」とあります。縁結びの神として崇められたようですが、今は「信濃なる遠柒川の辺にハ志゛゛くせむすぶの神、いまし」の古歌碑と、かわいい小さな石の祠が往時の面影を伝えるのみです。